

コメで走る車の時代

～バイオマス時代の到来 - 地球温暖化に警鐘

5月4日、気候変動に関する政府間パネル（IPCC；Intergovernmental Panel on Climate Change）は、地球温暖化の結果「21世紀中に地球の平均気温が最悪の場合6.4 上昇する」と発表した。因みに約2の平均気温の上昇で、植物および動物種の20～30%が絶滅する可能性が高くなると予測。この100年間で6.4も気温が上昇するということは地球の歴史においてどの程度の変化なのであろうか？

約2万年前の最終氷河期は、現在より気温が5 程度低く、その後約1万年かけてほぼ現在の気温まで上昇した。これは、100年あたりに0.05 の気温が上昇したことに相当するが、今後100年間に気温が約6.4 上昇するということが、いかに急激で異常な変化であるのかが分かる。

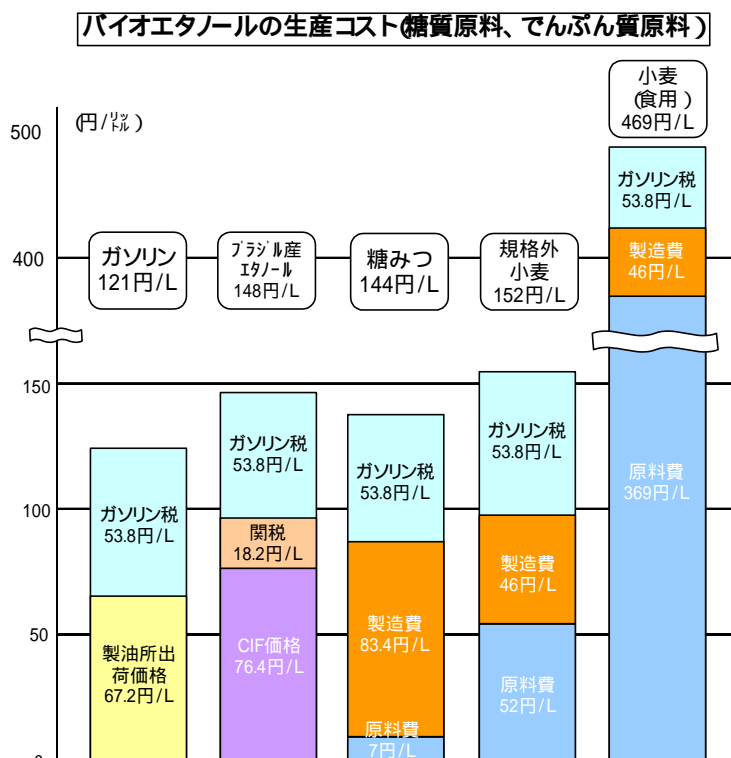
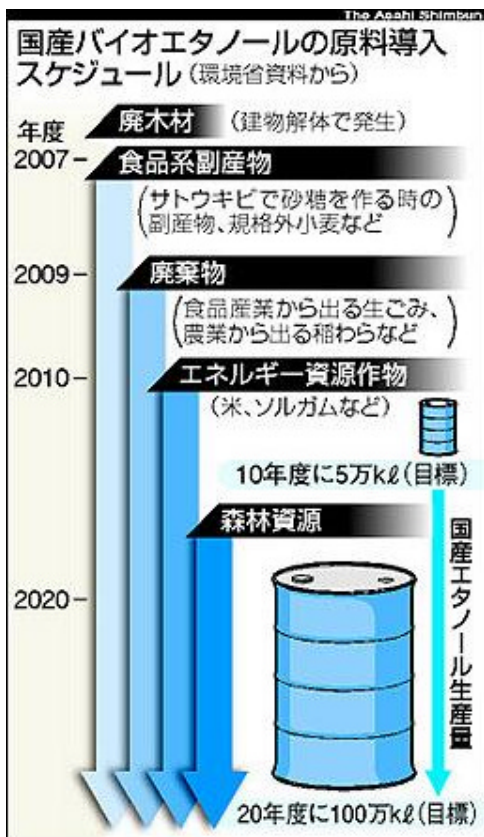
バイオ燃料は地球温暖化抑制に貢献

「環境保全と経済の発展が地球規模で両立する社会」では、この6.4 の上昇を約1.8（1.1～2.9）の気温上昇でとどめることが可能と予測している。日本政府は、20年後にバイオ・エタノール100万KLの生産するシナリオを発表した。

バイオ・エタノールの生産コスト（糖質原料、でんぷん質原料）は、下図のとおり06年6月1日現在のガソリン卸売価格121円/Lに対し、ブラジル産エタノール148円/L、糖みつ144円/L規格外小麦152円/Lで製造コストが高く、技術的な開発が求められる。

ここで脚光を浴びてきたのが、耕作放棄地を有効活用したコメからのバイオ燃料である。コメからバイオ・エタノールの生産を促進することで、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの適切な抑制対策を取

（次ページへ続く）



(前ページより続く)

ることが可能だ。コメのみでなく稲藁なども利用できる。今後、資源作物等からもバイオ燃料を製造する低コスト生産技術の開発が期待され、「バイオ燃料」は、国家戦略として関連6省が連携し、地域発の事業として環境事業を政府系の農林公庫、中小公庫などが支援する。国産バイオ燃料の生産によって、農業と産業が共生し地方が活性化するのを期待する。

改正種苗法にご注意！

登録品種の種苗キクを、無断で栽培、販売する目的で倉庫に保管していた愛知県の農家が、種苗法違反(育成者権侵害)の疑いで摘発され、5月17日、名古屋地検半田支部へ書類送検された。同法での摘発は県内では初めてで、全国的にも珍しいという。

調べによると男性は、昨年3月16日、広島県福山市の種苗会社「精興園」が登録している西洋キク「鞠(まり)かざぐるま」306本を、同社の許可を受けずに販売する目的で所持していた疑い。男性は04年11月から06年2月ごろまでの間に、同キク約2000本を路上などで、約28万円で販売していたという。06年3月、同社が「登録してあるキクを勝手に栽培、販売している」と半田署に告訴。男性宅や倉庫を捜索したところ、3種類のキクを発見。同署は岡山県の種苗管理センター西日本農場に依頼し1年がかりで花を咲かせて鑑定。結果、うち1種類が、質的形質、擬似質的形質、量的形質の3試験81項目で「鞠かざぐるま」と一致した。男性は、「登録品種であることは知っていたが、花を見ただけでは似ていてもわからないだろうと思った」と供述しているという。(毎日新聞より)

* 種苗法違反の罰則は<個人> 3年以下の懲役または300万円以下の罰金<法人> 1億円以下の罰金



ルーキー登場

またまた一年ぶりの登場になります駅伝同好会“MAC'S(まっくす)”です。去る日曜日、恒例となりました荒川河川敷(東京都荒川区)を舞台にした駅伝大会に参加しました。昨年は雨天の中を泥ドロになりながら走った悪コンディションでしたが、今年は絶好の曇天に恵まれ、参加チームは過去最高の1,000チームを超えました。

我がチームは社外の助っ人2名(日本カーバイド工業(株)/梶川氏、三菱商事(株)肥料ユニット/日野氏)のおかげで、23kmを4区間で競う種目に2チームがエントリーし、日頃の練習の成果を発揮して必死にタスキをつなぎ、無事ゴールしました。記録と順位はまだ発表されていませんが、昨年よりは早いタイムでゴールできた(?)と思います。



左手前より:梶川氏、高橋(東京支店)、日野氏、草野(農産部)

左手奥より:栗原(東京支店)、清野(原料部)、渡辺(総務経理部)、椎橋(農産部)

今回は今年の当社新入社員であるルーキー栗原(くわばら)がアンカーとして5kmを完走しましたので紹介します。

「初めまして、新入社員の栗原と申します。久しぶりに5kmを走り、日頃の運動不足を痛感しました。次の秋の大会に向けてトレーニングしようと思っています。まだまだ仕事も駅伝も至らぬ点ばかりですが、日々邁進していく所存ですので、何卒宜しくお願い申し上げます。」

レース後はこれまた恒例の冷たいビールで喉を潤し、今日の走りについての話に花を咲かせました。次回大会は11月です。(MAC'S主将 高橋 英雄)

「目には青葉 山ほととぎす 初鯉」この季節ピッタリの誰もが知ってる俳句です。しかし、日本文学にとっても疎いので大きな勘違いをし、作者は松尾芭蕉 目に青葉...だと思っていました。正しくは作者は山口素堂(1672-1716)。芭蕉とも親交のあった江戸時代前期の俳人 目には青葉...だそうです。

編集局長:小田原次洋 アシスタント:助川尚子

電話:03-5802-2011/E-mail: journal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp